

『永平略録』と『永平広録』の関係

(上)

——本文対照校異——

菅 原 謙 貴

はじめに

本稿は、『永平略録』と『永平広録』（正山本・門鶴本）との本文対校を試みたものである。『永平略録』と『永平広録』との関係については、既に諸先学により論じられており、特に両者の字句の相違や現存の『永平広録』に見出しえない『永平略録』特有の上堂語の存在などにより、正山本・門鶴本の二系統以外の第三の異本系統の『永平広録』の存在が論議されている。

筆者は、拙稿（「『永平元禪師語録』についての一考察」『宗学研究』第三七号、「『永平略録』成立の諸問題」（一）『宗学研究』第三八号、「『義雲録』所収の『永平広録』について

研究ノート 『永平略録』と『永平広録』の関係（上）（菅原）

て」『曹洞宗研究員研究紀要』第二二七号等）において、両者の関係について、（一）字句の相違、（二）特殊な用語、（三）禅機を示す語、（四）『略録』特有の上堂語、（五）『義雲録』所収の『永平広録』との対比などの視点から検討を試みたが、その結果、『略録』と『広録』との本文の相違を、義遠の『広録』校正による改変とするには疑義が生ずるのであり、今一度、寒巖義尹携行の『永平広録』、及び第三系統の『永平広録』の存在等について再検討すべきものと考えるのである。

上述のことから、『略録』・『広録』との関係を対校表に

より、全体的・総合的に考究することは、両者の構成、及びその相違点をより明確にし、更に研究素材の用としても、

研究ノート 『永平略録』と『永平広録』の関係(上) (菅原)

それなりに意義あるものと思う。

もとより筆者の浅学菲才なる故、誤りを犯している箇所も多々あると思われる。不完全な箇所は、識者のご叱正を乞い徐々に訂正補筆していきたい。

なお、紙幅の関係上、今回は『永平略録』の上堂語第五

○までを掲載した。

凡例

一、『永平略録』は、駒沢大学図書館所蔵本(延文三年)^{八三}

五八)版の後刷りといわれる)を底本として用いた。

一、『永平広録』は、^{祖山本}_{対校}大谷哲夫編『^元山本永平広録

山本永平広録^{考注}（一穂社）を用いた。
一、^元山本・門鶴本の傍線部は、『永平略録』本文との共通箇所であり、字句が前後したり、異体・俗字等がある場合は点線で示した。また、「山僧」・「興聖」・「大仏」・「永平」の自称、禪機を示した語、「良久云日」、その他特殊な用語については□で囲んで示した。

一、本文は原則として底本に拠つたが、明らかに誤字・脱字と思われる箇所は、それぞれ対応する諸本により訂正した。

一、各本の「上堂」欄等の冠頭には、それぞれ通し番号を附しておいた。

一、本文の出典は、原則として拈提された古則公案のみにとどめ、字句の々々の出典については一切省略した。

一、各本の対照校異については、下段の「備考」欄に記した。

『永平略録』	元山本『永平広録』	門鶴本『永平広録』	備 考
元禪師初住本京宇治縣興聖 禪寺語錄	開闢初住本京宇治縣興聖寺 語錄卷第一	開闢本京宇治郡興聖禪寺語 錄第一	
侍者 詮慧 編	侍者 詮慧 編	侍者 詮慧 編	
師於嘉禎二年丙申十月十 五日就當山開堂拈香	師於嘉禎二年丙申十月十 五日始就當山開堂拈香	師於嘉禎二年丙申十月十五 日始就當山集衆說法	【略録】・ ^元 本の「開堂拈香祝聖罷」 は門本に「集衆說法」とある。

祝レ聖罷

祝レ聖罷

(1) 上堂山僧歴叢林不レ多只

是等閑見天童先師當下

認得眼横鼻直不レ被人

瞞便乃空手還郷所以一毫

無佛法任運且延時朝朝

日東出夜夜月沈西雲収山

骨露雨過四山低畢竟如何

良久云三年逢一閨雞向

五更啼久立下座

謝詞不レ録

(1) 上堂山僧歴叢林不レ多只

是等閑見天童先師當下

認得眼横鼻直不レ被人

瞞便乃空手還郷所以一毫

無佛法任運且延時朝朝

日東出夜夜月沈西雲収山

骨露雨過四山低畢竟如何

良久曰三年逢一閨雞向

五更啼久立下座

(48) 上堂云山僧是歴叢林不レ

多只是等閑見先師天童然

而不レ被天童謾天童還被

山僧謾近來空手還郷所以

山僧無佛法任運且延時朝朝

日東出夜夜月落西雲収山

谷靜雨過四山低三年必一閨

鶏向五更啼

「略録」に「謝詞不録」の語あり。

「略録」・正本に「良久云(曰)」の語あるも門本になし。

「略録」・正本に「久立下座」の語あるも門本になし。

(2) 上堂舉南泉問黃檗甚處去

檗云擇菜去泉云將甚麼

擇檗豎起刀子泉云只解

作客不レ解作主師云南泉

黃檗故是作家相見若是興

聖別有商量當黃檗豎

起刀子時代南泉向他

(12) 上堂舉南泉問黃檗甚麼處

去檗曰擇菜去泉曰將甚

麼擇檗豎起刀子泉曰只

解作客不レ解作主師云

南泉黃檗故是作家相見雖

然恁麼若是大佛別有商

量當黃檗豎起刀子時上

(129) 晚間上堂云昔唐虞有犯法

者只畫其衣服而已雖然

無人犯法後來雖行五

刑之辛法屢多犯法之人

唐虞之畫衣無人犯法所下

以重道重法也今我儻幸

值於不可比唐虞之佛法

【会要】七、黃檗希運章。

門本は「晩間上堂」とする。正本の126・127上堂を門本では「記得」

の語を記載し同一上堂とする。

「略録」の「興聖」の自称は正本・

門本では「大佛」とする。

「略録」・正本の「參」は門本になし。

「略録」の上堂語は正本・門本では「大佛寺語録」に収録されている。

研究ノート 『永平略録』と『永平広録』の関係(上) (菅原)

『永平略録』	正山本『永平広録』	門鶴本『永平広録』	備考
道我王庫内無如是刀 参	代南泉向黃蘖道我王庫内無如是刀 参	設使不畫衣服豈犯佛法者哉如有犯者乃不重佛法也苦乎佛陀耶記得南泉問黃蘖甚處去蘖云擇菜去泉云將甚麼擇蘖豎起刀子泉云只解作客不解作主南泉黃蘖作家相見雖是恁麼若是大佛別有商量當下黃蘖豎起刀子時代南泉向黃蘖道我王庫内無如是刀	
(3) 上堂示衆云奉告兄弟若於堂内廊下谿邊樹下相見處互相合掌低頭如法問訊永爲恒規只如佛祖相見豈無禮儀佛在世日或燒香散香或雨花獻寶慰問四大	(131) 上堂去年冬間特示兄弟若於堂内廊下谿邊樹下相見處互相合掌低頭如法問訊然後說話永爲恒規只如佛祖相見豈無禮儀佛在世日或燒香散香或雨花散華	(133) 上堂去年冬間特示兄弟若於堂内廊下谿邊樹下兄弟每相見處互相合掌低頭如法問訊然後說話未問訊前不許相語大小要事永	
〔大慧録〕八。			〔大慧録〕八。
〔大慧録〕八。			〔大慧録〕八。

咨詢度生永嘉到曹谿時

振錫而立皆是佛祖相見儀

式切切遵守庶幾不昧祖

宗記得僧問睦州一言道

盡時如何州云老僧在你鉢

囊裡又僧問雲門一言道

盡時如何門云裂破古今

有レ人問山僧一言道盡時

頭師云可惜許一柄拂子

慰問四大調和咨詢受化

易不永嘉到曹谿時振錫

而立皆是佛祖相見儀式切切

遵守莫昧先蹤記得僧問

睦州一言道盡時如何州曰

老僧在你鉢囊裡又僧問

雲門一言道盡時如何門曰

裂破古今有レ人問大佛

言道盡時如何擲下拂子

衆皆舉頭師云可惜許一柄

拂子

茶飯也佛祖豈無禮議佛祖

會處有燒香散香有雨花散

華慰問四大調和問訊受

化易不若有如是佛法僧

寶現前者與記得僧問

睦州一言道盡時如何州云老

僧在你鉢囊裡又僧問雲

門一言道盡如何門云裂破

古今有レ人問大佛一言道

盡時如何擲下拂子堵前

便云大衆還會麼若也未會可

惜許一柄拂子

(4) 上堂云身心脱落聲色俱非箇

中無悟何處着迷座中誰是

江南客聽取鵠鴟聲外詞

(355) 上堂曰本國人聞於上堂之

名最初永平之傳也嵯峨天

皇御宇弘仁年中橘氏太后者

嵯峨之太后仁明之國母也遠

請大唐塩官齊安國師之門

人惠元而安于東寺之西

(358) 上堂曰本國人聞於上堂之

名最初永平之傳也嵯峨天

皇御宇弘仁年中橘氏太后者

嵯峨之太后仁明之國母也遠

請大唐塩官齊安國師之門

人惠元而安于東寺之西

「略錄」は正本・門本に存する前半部「日本國……繁詞不具錄」の箇所が削除されたかの様相を呈する。

正本・門本の「良久曰云」の語は「略錄」になし。
「略錄」の「身心脱落」の語は正本・門本には「脱落身心」とある。

「略錄」の上堂語は正本・門本では「大仏寺語錄」に収録されている。

研究ノート 『永平略録』と『永平広録』の関係(上) (菅原)

『永平略録』	正山本『永平広録』	門鶴本『永平広録』	備考
(5) 上堂忽聞「佛法」二字早是汚我耳目諸人未到法堂已喫三十棒了也雖然如是山僧今日也是爲衆竭力喝一喝下座	(47) 上堂云忽聞「佛法」二字早是汚我耳目諸人未到法堂已喫三十棒了也雖然如是山僧今日也是爲衆竭力喝一喝下座	(47) 上堂云忽聞「佛法」二字早是汚我耳目諸人未跨僧堂門限未踏法堂便好與三十棒了也雖然如是山僧今日也是竭力爲衆喝一喝下座	(※ 「如淨語録」及び「略録」の無外義遠の序には「心塵脱落」とある。) 「略録」の上堂語は正本・門本いずれにも合致しない。「略録」特有の上堂語とされる。
(6) 上堂諸人要識「祖師」麼掀翻海嶽求知己要識二祖麼撥亂乾坤建太平	(43) 上堂曰諸人要識「祖師」麼掀翻海嶽求知己要識二祖麼撥亂乾坤建太	(43) 上堂云諸人要識「祖」麼掀翻海嶽求知己要識「祖」初祖麼撥動乾坤建太	
〔略録〕・正本の「祖師」が門本には「祖」とあり、「略録」・正本の「祖」が門本では「初祖」とある。			

隻履不レ知何處去宗風千古

播二嘉聲一

平一隻履不レ知何處去宗風千

古播二嘉聲一

平一畢竟作麼生道二佛不レ知
何處去宗風萬古播二嘉聲一

(7) 上堂釋迦老子道明星現時我

與二大地衆生二同時成道且道
作麼生是所成底道若人會得

釋迦老子無レ處レ着二慚愧一

爲レ甚如レ此速道速道

(38) 上堂曰釋迦老子道明星現時

我與二大地有情二同時成道且

道作麼生是所成底道若人會

得釋迦老子無レ處レ着二慚愧一

爲レ甚如レ此速道速道

(8) 上堂直道本來無一物誰知遍

界不曾藏下座

(52) 上堂云直道本來無二一物二還

看遍界不二曾藏二下座

(53) 上堂云直道本來無二一物二還

看二遍界不二曾藏二下座

(9) 開爐上堂興聖爐鞴開帳佛

(15) 開爐上堂興聖爐鞴開帳佛

祖跳レ之不出有レ問二箇中意

旨一今朝十月初一

(14) 開爐上堂百家爐鞴開得佛

祖從來練得有問二箇中意旨一

今朝十月初一

(10) 上堂舉東印土國王請二般若

(21) 上堂舉東印土國王請二般若

(20) 上堂舉東印土國王請二般若

「略錄」・正本の「興聖」の自称は
門本には「自家」とある。
「略錄」・正本の「師舉了云更說道
理看」の箇所は門本には「師曰如

(37) 上堂云釋迦牟尼佛言明星出
現時我與二大地有情二同時成
道作麼生是成道底道理大
道元來無今日還始有釋迦老

子喚什麼作有情又把二什麼
來為二道而成速道速道

「略錄」の「大地衆生」の語は正本・
門本には「大地有情」とある。
「正法眼藏」には六カ所存するが、
全て「大地有情」とある。

研究ノート 『永平略録』と『永平広録』の関係(上) (菅原)

『永平略録』	正山本『永平広録』	門鶴本『永平広録』	備考
(1) 上堂但見青山常運歩誰知 白石夜生兒下座	(24) 上堂曰但見青山常運歩誰 知白石夜生兒下座	盡轉經尊者為甚麼不轉 尊者曰貧道出息不隨衆 緣入息不居陰界常轉 如是經百千萬億卷師舉了 云更說道理看	盡轉經尊者為甚麼不轉 尊者曰貧道出息不隨衆 緣入息不居蘊界常轉 如是經百千萬億卷師舉了 云更說道理看
(12) 上堂舉昔曰迦葉尊者踏泥 時有沙弥問尊者何得自 爲尊者云我若不爲誰爲 我爲師云心如臘月扇身 如寒谷雲若見得我爲便 見得誰爲二塗俱不涉鐵 壁峭危危	(28) 上堂舉昔曰迦葉尊者踏泥 時有沙弥問尊者何得自 爲尊者云我若不爲誰爲 我爲師云心如臘月扇身 如寒谷雲若見得自爲便 見得誰爲二塗俱不涉鐵 壁峭危危	盡轉經尊者為甚麼不轉 尊者曰貧道出息不隨衆 緣入息不居蘊界常轉 如是經百千萬億卷非但 一卷兩卷師曰如是我聞信 受奉行	盡轉經尊者為甚麼不轉 尊者曰貧道出息不隨衆 緣入息不居蘊界常轉 如是經百千萬億卷非但 一卷兩卷師曰如是我聞信 受奉行
(27) 上堂舉昔曰迦葉尊者踏泥 時有沙弥問尊者何得自 爲尊者云我若不爲誰爲 我爲師云心如臘月扇身 如寒谷雲若見得自爲便 見得誰爲二塗俱不涉鐵 壁峭危危	(23) 上堂云潛見青山常運步自 知白石夜生兒下座	〔普灯錄〕三、芙蓉道楷章。〔正法 眼藏〕「山水經」参照。 〔会要〕一、摩訶迦葉章。	〔会要〕一、摩訶迦葉章。 〔正法眼藏〕「山水經」参照。 〔宏智頌古〕三。

(13) 上堂興聖久不爲衆說話

佛殿僧堂溪聲樹影揔爲諸人說了也諸人聞得也未若道聞得說箇什麼若道レ不聞辜負自己

(48) 上堂曰興聖久不爲衆說話

話佛殿僧堂溪聲樹影總爲諸人說了也諸人聞得也未若道聞得說箇什麼若道レ不聞辜負自己

(49) 上堂山僧久不爲衆說話

爲甚恁麼代有佛殿僧堂溪水松竹每每喃喃爲諸人了也諸人聽得也未若道不聞箇甚麼若道不聽五戒不持

(14) 上堂有人道得一句法界量滅未免春夢說吉凶更

若道得一句破塵出經也是紅粉飾佳人直下照了非夢之真覺便見法界未爲大微塵不爲小兩既不實一句何憑井底蝦嘛吞却月天邊玉兔自眠雲

(3) 上堂有人道得一句法界量滅未免春夢說吉凶更

若道得一句破塵出經也是紅粉飾佳人直下照了非夢之真覺便見法界未爲大微塵不爲小兩既不實一句何憑井底蝦嘛吞却月天邊玉兔自眠雲

(2) 上堂直饒道得周遍大法界未免春夢說吉凶直饒道得出入微塵裏未免紅粉作美女若也真見一微塵裡親見恒沙界忽然省覺從來狂用功夫沙界爲甚爲大微塵不爲小兩般既是未實一句何堪的當打破從來法界舊窠脫落從來微塵旧鞋作麼生道海底蝦嘛喫粥天邊玉兔洗鉢

門本の欠字は興聖寺本より補う。

「略録」・正本の「興聖」の自称は門本には「山僧」とある。
「略録」・正本の「辜負自己」の語が門本では「五戒不持」とある。

研究ノート 『永平略録』と『永平広録』の関係(上) (菅原)

『永平略録』	円山本『永平広録』	門鶴本『永平広録』	備考
(15) 上堂拈 <small>二</small> 提要妙 <small>一</small> 露柱皺 <small>レ</small> 眉出格玄談烏龜向 <small>レ</small> 火平實無 <small>レ</small> 事褒 <small>二</small> 貶古今 <small>一</small> 豈能自救焉敢救 <small>レ</small> 他諸人離 <small>レ</small> 此作麼商量莫是三年逢 <small>レ</small> 閏九月重陽 麼莫是大盡三十日小盡二十九 <small>一</small> 麼如 <small>レ</small> 斯見解喚作驢前馬後漢興聖敢道直饒恁麼也是驢前馬後漢	(5) 上堂拈 <small>二</small> 提要妙 <small>一</small> 露柱皺 <small>レ</small> 眉出格玄談烏龜向 <small>レ</small> 火平實無 <small>レ</small> 事褒 <small>二</small> 貶古今 <small>一</small> 豈能自救焉敢救 <small>レ</small> 他諸人離 <small>レ</small> 此作麼商量莫是三年逢 <small>レ</small> 閏九月重陽 陽麼莫是大盡三十日小盡二十九 <small>一</small> 麼如 <small>レ</small> 斯見解喚作驢前馬後漢興聖敢道直饒恁麼也是驢前馬後漢	(4) 上堂拈 <small>二</small> 提要妙 <small>一</small> 露柱皺 <small>レ</small> 眉出格玄談烏龜向 <small>レ</small> 火平實無 <small>レ</small> 事褒 <small>二</small> 貶古今 <small>一</small> 豈能自救焉敢他救矣諸人離 <small>レ</small> 此外還有別商量廣離此外作广生商量莫是三年逢 <small>レ</small> 閏九月重陽 廣莫是大盡三十日小盡二十九 <small>一</small> 廣若如 <small>レ</small> 斯見解興聖門下直須喚作駒前馬後竜頭蛇尾漢	門本の欠字は興聖寺本より補う。
(16) 上堂僧問如何是古佛心荅云 鳶啼處處同問如何是本来人荅云腦肢蓋 <small>レ</small> 眼漢師乃云有 <small>レ</small> 問有 <small>レ</small> 荅屎尿狼籍無 <small>レ</small> 問無 <small>レ</small> 荅雷霆霹靂十方大地平沉一切虛空迸裂外不放入 <small>二</small> 內不放出 <small>一</small> 槌痛下萬事了畢	(56) 上堂僧問如何是古佛心荅云 鳶啼處々同問如何是本来人荅云腦肢蓋 <small>レ</small> 眼漢師乃曰有 <small>レ</small> 問有 <small>レ</small> 荅屎尿狼籍無 <small>レ</small> 問無 <small>レ</small> 荅雷霆霹靂十方大地平沉一切虛空迸裂外不放入 <small>二</small> 內不放出 <small>一</small> 槌痛下萬事了畢	(57) 上堂云如何是古佛心向 <small>レ</small> 伊道鳶啼處處同如何是本来人向 <small>レ</small> 伊道皮枯骨瘦漢	
『略録』・円本の「師乃日」以下の箇所は門本になし。			

依前鼻孔大頭垂一對眼睛烏
律律

依前鼻孔大頭垂一對眼睛烏
律律

(17) 上堂如今雲水兄弟還有得

底人麼時有僧出禮拜師云
有自有只是未在僧問得箇
甚麼師云不_レ信_レ道師乃云
要_レ識_ニ得底人麼心不_レ負_レ
人面無_ニ慚色

(70) 上堂云如今雲水兄弟還有得

底人麼時有僧出禮拜師云
云有自有只是未在僧問得
箇甚麼師云不_レ信_レ道師乃
云要_レ識_ニ得底人麼心不_レ
負_レ人面無_ニ慚色

(72) 上堂云如今雲水兄弟有得

底人麼時有僧出禮拜師云
有是有只是未_レ在僧問得箇
甚麼師云情知你未得師乃云
如何是得底人良久云身心

門本の「良久云」の語は「略録」。
正本になし。

(18) 上堂赤心片片誰知得笑殺黃
梅路上兒

(54) 上堂云赤心片々誰知得笑殺

黃梅路上兒

(55) 上堂云赤心片片誰知得笑殺

黃梅路上兒

「伝灯錄」三、四祖道信章。

(19) 上堂進一步未_レ免犯_ニ他國

王水草退一步未_レ免踏_ニ

着祖父田園不_レ進不_レ退還

有出身之路也無良久云

權掛_ニ垢衣_ニ是佛_ニ却裝_ニ

珎御_ニ復爲_レ誰

(75) 上堂曰直進一步未_レ免犯_ニ

國王水草直退一步未_レ免

踏_ニ祖父田園不_レ進不_レ退之處

還有出身之路也無良久云

權掛_ニ垢衣_ニ是佛_ニ却裝_ニ

珎御_ニ復爲_レ誰

(176) 上堂云直進一步未_レ免犯_ニ國王水草直退一步未_レ

免踏_ニ祖父田園不_レ進不_レ退

之處還有出身之路也無

良久云權掛_ニ垢衣_ニ是佛_ニ却裝_ニ

珎御_ニ復爲_レ誰

「略録」の上堂語は正本・門本では「大仏寺語録」に収録されています。

研究ノート 『永平略録』と『永平広録』の関係(上) (菅原)

『永平略録』	円山本『永平広録』	門鶴本『永平広録』	備考
(20) 爲僧海首座上堂海臨終有頌 云二十七年古債未レ轉踏 _二 翻虛空 _一 投レ獄如 _レ 箭師舉了云 夜來僧海枯雲水競鳴呼徹底 汝方見還忌見刺無攔胸一拂 猶未 _レ 警一死而今方再蘇	(108) 為亡僧僧海首座上堂海臨終有 _レ 頌曰二十七年古債未 _レ 終有 _レ 翻虛空 _一 投 _レ 獄如 _レ 箭師 舉了云夜來僧海枯雲水競鳴呼徹底 汝方見還忌見刺無攔胸一拂 胸一拂猶未 _レ 警一死而今方再蘇	(11) 為亡僧僧海首座上堂舉 _二 未 _レ 轉踏 _二 翻虛空 _一 投 _レ 獄如 _レ 箭 師舉了云夜來僧海枯雲水幾 呼徹底汝方見還忌見刺無攔胸 胸一拂猶未 _レ 警一死而今方再蘇	「略録」は円本・門本に存する「亡僧」の語なし。
(21) 上堂人人盡有 _二 衡 _レ 天志 _一 莫 _下 向 _二 如來行處 _一 行 _上 下座	(41) 上堂曰人人盡有 _二 衡 _レ 天志 _一 莫 _下 向 _二 如來行處 _一 行 _上 下座	(40) 上堂云人人盡有 _二 衡 _レ 天志 _一 但 向 _二 如來明處 _一 明 _下 下座	「略録」は円本・門本に存する「 <u>略録</u> 」の本上堂語まで「興聖寺語録」として収録される。
(22) 上堂一句也氷消瓦解一句也 塞 _レ 壑 _一 填 _レ 溝且道三世諸佛六 代祖師向 _二 那箇一句中 _一 爲 _レ 人興聖這裡有 _二 諸佛未 _レ 曾 說祖師未曾舉底一句 _一 舉 _二 似諸人 _一 良久 _二 云 _一 了	(10) 上堂一句也氷銷瓦解一句也 塞 _レ 壑 _一 填 _レ 溝且道三世諸佛六 代祖師向 _二 那箇一句中 _一 爲 _レ 人興聖這裡有 _二 諸佛未 _レ 曾 說祖師未曾舉底一句 _一 舉 _二 舉 _二 似諸人 _一 良久 _二 云 _一 了	(9) 上堂一句也氷銷瓦解一句也 填 _レ 溝塞 _レ 壑 _二 三世 _一 諸佛六代祖 師向 _二 這一句中 _一 生天下天託 胎出胎成道轉法輪故云明々 百草頭明々祖師意雖然如 る。「略録」・円本は「良久云」以下の箇所が「了」とあるが、門本では「明々百草頭明々祖師意」と異なる。「略録」・円本は「十玄談」に依る。語録として収録される。	「略録」は円本・門本に存する「 <u>略録</u> 」の本上堂語まで「興聖寺語録」として収録される。

要委悉广良久云明々百草
頭明々祖師意

(23) 上堂云獨存無倚脱落全真混

然明歷歷於萬象之中卓爾

活鰻鰻於不疑之地如月

印レ水而無レ痕似風行空而

不レ動恁麼委悉得去陋巷

不レ騎金色馬廻途却着破襴

衫

(313) 上堂獨存無倚脱落全真混

然明歷歷於萬象之中卓爾

活鰻鰻於一頭之地如月

印レ水是流而非流如風

行空是動而非動恁麼委

悉得去陋巷不レ騎金色馬回

途却著破襴衫

(316) 上堂獨存無倚脱落全真混

然明歷歷於萬象之中卓爾

活鰻鰻於一頭之地如月

印レ水是流而非流如風

空是動而非動恁麼委悉得

去陋巷不レ騎金色馬廻途

却著破襴衫

本上堂語より「永平寺語錄」とさ
れる。

「略錄」の本上堂語の文頭に「開
闢次住越州吉祥山永平寺語錄侍者

懷奘編師於寛元二年甲辰七月十八
日徒子當山の語あり。

「陋巷不騎金色馬廻途却著破襴
衫」の語は「如淨語錄」「請緣西

堂再充首座上堂」による。

(24) 上堂人人握夜光之珠箇箇

抱荆山之玉若不回光返

照甘爲懷寶迷邦不レ

見道應耳時如空谷大小

音聲無レ不足足應眼時如

千日萬像不能逃影質若

非聲色外邊求達磨西來也

大屈

(279) 上堂人々盡握夜光之珠

家々自抱荆山之璞若不

回光返照甘為懷寶迷邦

不見道應耳時如空谷大

小音聲無レ不足足應眼時如

千日照萬像不能逃影

質若非聲色外邊求達磨

西來也大屈

(282) 上堂人人盡握夜光之珠家

家自抱荆山之璞雖未廻

向返照若爲懷寶迷鄉不

見道應耳時如空谷神大

小音聲無レ不足足應眼時如

千日照萬像不能逃影

質若從聲色外邊求達磨

西來也大屈

研究ノート『永平略録』と『永平広録』の関係(上) (菅原)

備考	門鶴本『永平広録』	卍山本『永平広録』	『永平略録』
			(25) 上堂云先來慈明圓和尚會中 有大叢林小叢林之說且道 甚麼作大叢林喚甚麼小 叢林若以衆之寡多院之大 小爲叢林之量則成戲論 縱使衆多而無抱道之人則 是爲小叢林縱院小而有 抱道之人是爲大叢林也 猶不以民繁土廣爲大 國而以有君聖臣賢爲 大國也汾陽照禪師會中止七 八衆趙州不滿二十衆藥 山僅有二十衆然例作晚參 故永平今茲入院晚參行古 規也或五百七百以至千僧 不忝爲大叢林號大叢 林既無抱道之人具主席 者敢擬藥山趙州汾陽諸
			(125) 晩間上堂曰先來慈明圓禪 師會有大叢林小叢林之 論雖是先德之論猶欠一 隻眼且道喚甚麼作大叢 林喚甚麼作小叢林不 可以下衆多院闊爲大叢 林不可以下院小衆寡爲 小叢林若以衆之寡多院之 大小爲叢林之量則成戲 論縱衆多而無抱道之人 則是爲小叢林縱院小而 有抱道之人則是爲大叢 林也猶不以民繁土廣 爲中大國而以有君聖臣 賢爲國也人之家亦復如 是佛佛祖祖大叢林必有晚 參因茲汾陽善昭禪師會 中止七八衆趙州不滿二 十衆藥山僅有二十衆然例 作晚參近代雖聚會五百
			(128) 晩間上堂云先來慈明圓禪 師會有大叢林小叢林之論 雖是先德之論猶欠一隻 眼且道喚甚麼作大叢 林喚甚麼作小叢林不 可以下衆多院闊爲大叢 林不可以下院小衆寡爲 小叢林若以衆之寡多院之 大小爲叢林之量則成戲 論縱衆多而無抱道之人 則是爲小叢林縱院小而 有抱道之人則是爲大叢 林也猶不以民繁土廣 爲中大國而以有君聖臣 賢爲國也人之家亦復如 是佛佛祖祖大叢林必有晚 參因茲汾陽善昭禪師會 中止七八衆趙州不滿二 十衆藥山僅有二十衆然例 作晚參近代雖聚會五百

老耶所以近代無晚參亦
絶講先住天童時千載一遇
也雖當澆運軌則尤嚴或
半夜或晚間或齋罷不拘
時節要入室普說乃希代之
勝躅也今永平既稱其嗣
子所以不廢晚參我朝之
最初也記得丹霞和尚舉德
山示衆云我宗無語句亦
無一法與人德山恁麼道
只是入草求人不覺通身
泥水子細觀來只具一隻眼
若是丹霞即不然我宗有語
句金刀剪不開玄玄深妙旨
玉女夜懷胎師云丹霞恁麼道
得眼睛照破舊苴德山然
雖如是永平即不然我宗
無語句心與口相乖拈出
爲人處驢胎與馬胎

七百及一千僧既無抱道之
人具主席者上豈為大叢
林而比藥山趙州汾陽等之
會者哉所以近代斷無晚參
亦絕講矣先師天童出世乃
千載一遇也雖當澆運軌
則尤嚴或半夜或晚間或齋罷
不拘時節或擊小參鼓乃
入室或自手打僧堂槌在
鼓乃普說或擊小參鼓乃
首座寮前板就首座寮普
說普說了入室乃希代之勝躅
也今天佛既為天童之子
亦行晚參是則我朝之最
初也記得丹霞和尚舉德山
示衆曰我宗無語句亦無
一法與人德山恁麼道只是
入草求人不覺通身泥水

五百七百及一千僧上豈為大
叢林而比藥山趙州汾陽等
之會者哉所以席主又不可
箇道人也所以席主又不可
比藥山趙州汾陽等也所以近
代斷無晚參矣先師天童出
世乃千載一遇也不拘澆運
之軌則或半夜或晚間或齋
罷不拘時節或擊入室
鼓乃普說或擊小參鼓乃
入室或自手打僧堂槌三下
在照堂普說了入室或打
首座寮前板就首座寮普
說普說了入室乃希代之勝躅
也今天佛既為天童之子
亦行晚參是則我朝之最
初也記得丹霞和尚舉德山
示衆云得我宗無語句亦
無一法與人德山恁麼道

研究ノート 『永平略録』と『永平広録』の関係(上) (菅原)

『永平略録』	円山本『永平広録』	門鶴本『永平広録』	備考
(26) 結夏上堂以拂子作圓相云結制安居超越遮箇又作一圓相云九旬禁足	子細觀來只具一隻眼若是丹霞即不然我宗有語句金刀剪不開玄玄深妙旨玉女夜懷胎師曰丹霞恁麼道得眼睛照破菩提德山笑殺古今等閑佛祖雖然如是若是天佛即不然大衆要聽天佛道麼良久曰我宗無語句心與口相乖拈出為人處駢胎與馬胎	只是入草求人不覺通身泥水子細觀來只具一隻眼若是丹霞即不然我宗有語句金刀剪不開玄玄深妙旨玉女夜懷胎師云丹霞恁麼道得眼睛照破菩提德山笑殺古今等閑佛祖雖然如是若是天佛即不然大衆要聽天佛道麼良久曰我宗唯語句眼口競頭開拈出為人處駢胎與馬胎	
(24) 結夏上堂拈拂子作一圓相曰安居超越遮箇又作一圓相曰安居究參這			
(17) 結夏上堂拈拂子作一圓相云安居超越遮箇又作一圓相曰安居究參這			
【略録】の本上堂語は円本・門本では「大仏寺語録」に収録される。「略録」に「永平」の自称あるも円本・門本にはし。円相曰(云)の語あるも「略録」になし。	【略録】の「九旬禁足」の語は円本・門本・門本の末尾に「乃拈拂子作」の語あるも「略録」になし。	【略録】の「九旬禁足」の語は円本・門本・門本にはし。	

處處安居時時禁足雖然恁

麼莫將這箇爲極則莫

將レ這箇爲句上掃除極

則踏翻向上永平唯此是

安居堪與叢林爲榜樣

而傳法傳衣枚々夏安居時々

作頂骨雖然恁麼莫下拈

這箇爲中向上莫下拈這

箇爲中向上縱見最初

趨倒最初縱見向上踏

翻向上既得恁麼不拘

最初不拘向上又且如

何乃拈子作一圓相曰

向這箇巢裡安居

分而傳法傳衣枚枚夏安居

時時作頂骨雖然恁麼莫

下拈這箇爲中最初莫下拈

這箇爲中向上縱見最初

趨倒最初縱見向上踏

翻向上既得恁麼不拘

最初不拘向上又且如

何乃拈拂子作一圓相

云向這箇巢裏安居

門本では「安居」とある。

(27) 上堂記得僧問趙州未レ

有世界早有此性世界壞

時此性不壞作麼生是不壞

性趙州云四大五蘊僧云此猶

是壞底作麼生是不壞性趙州

云四大五蘊師云趙州古佛只

知把定不能放行永平

敢道水長船高泥多佛大

(138) 上堂曰記得僧問趙州未レ

有世界早有此性世界壞

時此性不壞作麼生是不壞

性趙州曰四大五蘊僧曰此猶

是壞底作麼生是不壞性趙州

云四大五蘊師曰趙州雖恁

麼道只知把定不能放行

天佛更道水長船高泥多佛大

(140) 上堂云記得僧問趙州未レ

有世界早有此性世界壞時

此性不壞作麼生是不壞性

趙州云四大五蘊僧云此猶是

壞底作麼生是不壞性趙州云

四大五蘊師云趙州雖恁麼

道天佛更道這箇水長船高

泥多佛大

【圓悟拈古】一七。

【略録】の本上堂語は正本・門本では「大佛寺語録」に収録されている。【略録】の「永平」の自称は正本・門本では「大佛」とある。

研究ノート『永平略録』と『永平広録』の関係(上) (菅原)

『永平略録』	正山本『永平広録』	門鶴本『永平広録』	備考
(28) 上堂大釣運 _二 載化儀 _一 絲毫 不 _レ 動石頭全 _二 提心印 _一 文彩 已彰到 _二 這田地 _一 佛眼觀不 _レ 及迷悟莫 _二 能該 _一 瞿曇鼻孔是 _二 山僧眼睛 _一 山僧眼睛是瞿曇 鼻孔所以隔 _レ 山見 _レ 煙便知 _二 是火隔 _レ 牆見 _レ 角定知 _二 是牛 _一 舉拂子云只這箇一毫不 _レ 隔 諸人畢竟喚作甚麼天曉報 來山鳥語陽春消息早梅香	(141) 上堂大釣運 _二 載化機 _一 絲毫 不 _レ 動石頭全 _二 提心印 _一 文彩 未 _レ 彰到 _二 這田地 _一 佛眼觀 不及迷悟莫 _二 能該 _一 瞿曇眼 晴在 _二 山僧 _一 手裡 _二 如 _一 木患 子 _二 山僧 _一 鼻孔在 _二 瞿曇 _一 手裡 _二 如 _二 竹筒兒 _一 所以隔 _レ 山見 _レ 煙 便知 _二 是火 _一 隔 _レ 牆見 _レ 角定 知 _二 是牛 _一 舉 _二 拂子 _一 曰只這 箇一毫不 _レ 隔諸人畢竟喚作 甚麼還要體悉 _二 麼天曉報 來山鳥語陽春消息早梅香	(143) 上堂木老運 _二 載化機 _一 絲毫 不 _レ 動石頭全 _二 提心印 _一 文彩 未 _レ 彰到 _二 這田地 _一 人眼天眼 觀不及迷智悟智測不 _レ 明職 由下瞿曇眼睛在 _二 山僧 _一 手裏 _二 如 _二 木患子 _一 山僧 ₂ 鼻孔在 ₂ 瞿 曇 ₁ 手裏 ₂ 如 ₂ 竹筒兒 ₁ 所以隔 ₂ 山水 ₂ 而見 ₂ 烟煙 ₁ 兮定知是 火隔 ₂ 牆壁 ₁ 而見 ₂ 頭角 ₁ 兮定 知是牛 ₂ 舉 ₂ 拂子 ₁ 云且道諸人 不 _レ 隔 ₂ 這箇 ₁ 親 ₂ 見 ₂ 這箇定知 又且如何還要體悉 ₂ 麼天曉報 來山鳥語陽春消息早梅香 記得僧問 _二 雲門 _一 如何是透 法身句雲門云北斗裏藏身師 云雲門老人只道得法身句 未 _二 道得透法身句或有 _レ 問 _二 大佛 _一 如何是透法身句即	「投子語錄」下。 正本の141・142上堂を門本では「記得」の語を記載し、同一上堂としている。 『略録』の本上堂語は正本・門本では「大仏寺語録」に収録されてる。

向レ伊道法身裏藏レ身下座

(29) 涅槃會上堂黃面瞿曇入涅槃
法幢摧折法河乾十成一會靈
山在徒一頓婆羅雙樹一寒下座

(30) 明菴千光禪師前權僧正法印

大和尚忌辰上堂舉師翁問虛

菴和尚學人不思善不思惡時

如何虛菴云本命元辰師翁云

恁麼則不_レ從_二今日去_一也虛

菴云若恁麼則不_レ妨今日去

也師翁禮拜虛菴云面_レ南看_二

北斗_一師良久云祖師本命元

辰微笑破顏一新不_レ假_二黃花

翠竹扶桑曰出逢_レ春

(31) 上堂入_レ海筭_レ沙空自費_レ力

(437) 明庵千光禪師前權僧正法印

大和尚位忌辰上堂_二師先學_一佛樹者明庵門

樹和尚_二舉師翁問_一虛庵和尚

學人不思善不思惡時如何虛

庵曰本命元辰師翁曰恁麼則

不_レ從_二今日_一去_レ也虛庵曰若

恁麼則不_レ妨今日去_一也師翁

禮拜虛庵曰面_レ南看_二北斗_一

師良久曰祖師本命元辰微

笑破顏一新不_レ假_二黃花

翠竹扶桑曰出逢_レ春

(278) 上堂入_レ海筭_レ沙空自費_レ力

(441) 明庵千光禪師前權僧正法印

大和尚位忌辰上堂_二師先學_一佛樹者明庵門

和尚佛_二舉師翁問_一虛庵和尚

學人不思善不思惡時如何虛

庵云本命元辰師翁云恁麼則

不_レ從_二今日_一去_レ也虛庵云若

恁麼則不_レ妨_二今日去_一也師

翁禮拜虛庵云南面看北斗

良久云祖師本命元辰微笑

破顏一新不_レ假_二桃花翠竹

扶桑當曰逢_レ春

(281) 上堂入_レ海筭_レ沙空自費_レ力

本上堂語は正本・門本とも合致し
ない。【略録】特有の上堂語とされ
る。

正本・門本には「師先學佛樹和尚
佛庵門人也」の語あり。

「正法眼藏」「坐禪藏」参照。

研究ノート『永平略録』と『永平広録』の関係(上) (菅原)

『永平略録』	円山本『永平広録』	門鶴本『永平広録』	備考
(32) 磨レ 塚作レ 鏡枉用ニ工夫ニ君 不レ 見高高山 上雲自卷自舒 滔滔澗下水隨レ 曲隨レ 直衆生 日用如ニ雲水ニ 雲水自由人 不レ 爾若得レ 爾三界輪廻何處 起	磨レ 塚作レ 鏡枉用ニ工夫ニ君 不レ 見高々山上雲自卷自舒 何親何疎滔々澗底水隨レ 曲 隨レ 直無レ 彼無レ 此衆生日用 如ニ雲水ニ 雲水自由人不レ 尔 若得尔三界輪廻何處起	磨塚作鏡枉用工夫君不見高 高山上雲自卷自舒何親何疎 深深澗底水遇レ 曲遇レ 直無 彼無レ 此衆生日用如雲水雲 水如然人不爾若得爾三界轉 廻何處起	
(207) 上堂舉陳陸州有僧來參ニ州 云汝豈不是行脚僧ニ僧云是 州云禮レ佛也未僧云禮ニ那土 壤ニ作レ麼州云自領出去師云 陳尊宿放去太奢收來太儉 雖則逢人露レ膽合水和泥 何不レ與ニ他本分草料ニ山僧 敢道這僧恁麼去也是杓ト 聽ニ虛聲ニ	上堂曰記得陳陸州因有レ僧 來參州曰汝豈不是行脚僧ニ 僧曰是州曰礼レ佛也未僧曰 礼ニ那土壤ニ作レ麼州叱曰自 領出去師云陳尊宿放去太奢 收來太儉雖下ニ是逢人露レ膽 和泥合水上ニ何不レ與ニ他本 分草料ニ這僧恁麼去也是杓ト 聽ニ虛聲ニ	上堂云記得陳尊宿有僧參 尊宿云汝豈不是行脚僧ニ僧 云是尊宿云禮佛也未僧云禮 那土壤作麼尊宿云自領出去 師云陳尊宿放去太奢收來太 險雖ニ是逢人露ニ肝膽和泥合 水何不レ與ニ人本分草料ニ這 僧恁麼也是杓ト聽虛聲	(208) 上堂云記得陳尊宿有僧參 〔伝灯録〕一二、陳尊宿章。 〔円本・門本に「記得」の語あるも 『略録』になし。】
(461) 上堂坐ニ断是非ニ超ニ越離微ニ 聽ニ虛聲ニ			
(33) 上堂坐ニ断是非ニ超ニ越離微ニ 聽ニ虛聲ニ			
(465) 上堂坐ニ断是非ニ超ニ越離微ニ 聽ニ虛聲ニ			

〔宏智録〕九、禪人并化主写真求贊。

佛祖之陶冶修證之範圍觸體
也眉底之活眼空却也句中之
玄機青原之赭色麒麟閑步
藥嶠之金毛師子全威相逢
還把レ手大道本同レ歸

(34)解夏上堂四月十五日握レ手

爲レ拳七月十五日開レ拳作レ
掌中間一句子超_ニ越兩頭邊
作麼生是超越底一句子眼皮
纔綻鼻孔遼天

佛祖之陶冶修證之範圍觸體
也眉底之活眼空却也句中之
玄機青原赭色之麒麟閑步
金毛之師子全威相逢必把レ
手大道本同レ歸

(246)解夏上堂四月十五日握レ手

爲レ拳七月十五日開レ拳作レ
掌中間一句子超_ニ越兩頭邊
作麼生是超越底一句子眼皮
纐鼻孔穿

佛祖之陶冶修證之範圍觸體
也眉底之活眼空却也句中之
玄機青原赭色之麒麟閑步
茱嶠金毛之師子全威相逢
必把レ手大道同一坂

(248)解夏上堂四月十五日握拳七

月十五日開拳中間一句子
超_ニ越兩頭邊作麼生是超越
兩邊底一句子眼皮纐鼻孔穿

(250)解夏上堂記得趙州因

僧問道人相見時如何州云呈

漆器師曰趙州古佛雖有逸

群之作且無平展之機或
有逸群之作且無平展之
機或有人問永平道人相

見時如何祇對他道八月仲
秋何處熱

【会要】六、趙州從諗章。

【略録】の「舉」の語は正本・門

本では「記得」とある。

【略録】の「山僧」の自称は正本・

門本では「永平」とある。

研究ノート 『永平略録』と『永平広録』の関係(上) (菅原)

『永平略録』	正山本『永平広録』	門鶴本『永平広録』	備考
(36) 上堂 永平 有時 入理深談 只要諸人田地穩密 有時 門庭施設 只要諸人神通遊戯 有時 奔逸絶塵 只要諸人身心脱落 有時 入自受用三昧 只要諸人信手拈得 忽有レ人出来道 向上事作麼生 但向道 晓風摩洗昏烟 淨隱隱青山展畫圖	(264) 上堂 永平 有時 入理深談 只要諸人田地穩密 永平 有時 門底施設 只要諸人神通遊戯 永平 有時 奔逸絶塵 只要諸人身心脱落 永平 有時 入自受用三昧 只要諸人信手拈得 忽有レ人出来道 向上又作麼生 但向山僧道 向上又作麼生 但向伊道 晓風摩洗昏煙 淨隱隱青山展畫圖	(266) 上堂 永平 有時 入理深談 只要諸人田地穩密 永平 有時 門庭絶設 只要諸人神通遊戯 永平 有時 奔逸絶塵 只要諸人身心脱落 永平 有時 入自受用三昧 只要諸人信手拈得 忽有レ人出来向山僧道 向上又作麼生 但向伊道 晓風摩洗昏煙 淨隱隱青山一線通	正本・門本には「永平」の自称が四箇所、「山僧」の自称が一箇所存するが、「略録」では「永平」の自称が一箇所のみであり、他の箇所は省略されたかの様相を呈している。
(37) 上堂 拈拄杖 云 橫拈倒用 撥開諸佛眼睛 暗去明来 敲落祖師鼻孔 當恁麼時 目連鷲子飲氣呑聲臨濟德山 呵呵大笑且道笑箇什麼 箇拄杖 云 等閑斜靠壁依舊黑粼皴	(269) 上堂 拈拄杖 曰 橫拈倒用 撥開諸佛眼睛 明去暗来 敲落祖師鼻孔 當恁麼時 目連鷲子飲氣呑聲臨濟德山 呵呵大笑且道笑箇什麼 箇拄杖 云 等閑斜靠壁依舊黑粼皴	(271) 上堂 拈拄杖 云 橫拈倒用 撥開諸佛眼睛 明去暗来 敲落祖師鼻孔 當恁麼時 目連鷲子飲氣呑聲臨齊德山 呵呵大笑且道笑箇什麼 箇拄杖 漢身黑	【略録】・正本に「靠拄杖」の語あるも門本になし。

(38) 上堂舉僧問趙州「 <u>趙州</u> 」 <u>狗子</u> 還 有 <u>佛性</u> 也無 <u>州</u> 云僧云一切 衆生皆有 <u>佛性</u> <u>狗子</u> 爲什 麼 <u>無州</u> 云爲 <u>伊</u> 有業識在 師云 <u>趙州</u> 恁麼爲人固是親 切 <u>山僧</u> 不然有 <u>レ</u> 問 <u>狗子</u> 佛性有無向 <u>レ</u> 他道有無俱是謗 更問如何和聲便棒	(327) 上堂記得僧問趙州「 <u>趙州</u> 」 <u>狗子</u> 還有 <u>佛性</u> 也無 <u>州</u> 曰無僧曰 一切衆生皆有 <u>佛性</u> <u>狗子</u> 爲什麼 <u>無州</u> 曰爲 <u>下伊</u> 有業 識在上師曰 <u>趙州</u> 恁麼爲人雖 最親切 <u>永平</u> 若有 <u>レ</u> 人問 <u>狗</u> <u>子</u> 還有 <u>佛性</u> 也無向 <u>レ</u> 他 道道有道無二俱是謗若他 更問如何 <u>山僧</u> 和聲便棒	(328) 上堂記得僧問趙州 <u>狗子</u> 還 有 <u>佛性</u> 也無 <u>州</u> 云無僧一切 衆生皆有 <u>佛性</u> <u>狗子</u> 爲什 麼 <u>無州</u> 云爲 <u>伊</u> 有業識在師 識在上師曰 <u>趙州</u> 恁麼爲人雖 最親切 <u>永平</u> 若有 <u>レ</u> 人問 <u>狗子</u> 還有佛性也無向 <u>レ</u> 他道道有道無二 俱是謗若他更問如何 <u>山僧</u> 和聲便棒
(39) 上堂外不放入內不放出 劈面一揮大事了畢不用如 何與若何摩訶般若波羅蜜	(330) 上堂外不放入內不放出 霹靂一拳萬事了畢雖然 如是無二無二分無斷摩訶 般若波羅蜜	(331) 上堂外不教入內不教出 霹靂一拳萬事了畢雖然如 是無二無二分無斷摩訶 般若波羅蜜
(40) 比丘尼懷義爲先妣請上堂 云生也無所從來猶如着衫 死也無所去處猶如脫袴萬	(387) 比丘尼懷義爲先妣請上堂 云生也無所從來猶如著衫 面目儼然萬法歸一死也無	(332) 上堂外不教入內不教出 霹靂一拳萬事了畢雖然如 是無二無二分無斷摩訶 般若波羅蜜
(391) 比丘尼懷義爲先妣請上堂 一生也無所從來猶如着 着袴然而面目儼然所以道 【如淨語錄】小仏事（一上座下火） からの引用。 正本・門本は「良久云」の語があるが、 【略録】になし。		

研究ノート 『永平略録』と『永平広録』の関係(上) (菅原)

『永平略録』	正山本『永平広録』	門鶴本『永平広録』	備考
(41) 法本空一歸何處到頭生死 不相干罪福皆空無所住	法本空一歸何處正當恁麼時又且 如何良久云從來生死不相干 罪福皆空無所住	所去處猶如脫袴蹤迹脫落 一歸何處正當恁麼時又且 如何良久云從來生死不相干 罪福皆空無所住	萬法皈一死也無所有法猶 如脫袴然而蹤迹脫落所以 道一皈何處正當恁麼時 又且如何良久云從來生死 不相干罪福皆空無所住
(39) 上堂恰恰無稜縫明明不 覆藏鷺嶺謾傳迦葉少林 豈授神光現成處處合頭語 具足人人知見香虛空演說森 羅聽不掛唇皮解舉揚 汝等諸人十二時中滿眼滿耳 超古超今誰自誰他何迷何 悟還體悉得麼良久云舉起 鎮州蘿蔔何似廬陵米價	上堂恰恰無稜縫明明不 覆藏鷺嶺縱傳迦葉少林 豈授神光現成處々合頭語 具足人々知見香虛空演說森 羅聽不掛唇皮解舉揚汝 汝等諸人雲衆水衆十二時中 滿眼滿耳超古超今誰自誰 他何迷何悟還體悉得麼 誰他何迷何悟還體悉得麼 良久云舉起鎮州蘿蔔何似 廬陵米價	(40) 上堂恰恰無稜縫明明不 覆藏鷺嶺縱傳迦葉少林 豈授神光現成處處合頭語 具足人人知見香虛空演說森 羅聽不掛唇皮解舉揚汝 汝等諸人雲衆水衆十二時中 滿眼滿耳超古超今誰自誰 他何迷何悟還體悉得麼 誰他何迷何悟還體悉得麼 良久云舉起鎮州蘿蔔何似 廬陵米價	〔宏智錄〕一、上堂語より引用。 〔伝灯錄〕五、青原行思章。
(189) 謝新舊維那知客上堂云頂			
(190) 謝新舊維那知客上堂云頂			

〔略録〕・正本は「良久云」以下

(43) 上堂舉五臺山頂雲蒸飯佛殿 堵前狗尿天利竿頭上煎 餽子三箇猢猻夜簸錢師云 若向這裡領覽得驪龍到處 興雲雨其或未然且待池 開臘月蓮參	(40) 上堂五臺山頂雲蒸飯佛殿 堵前狗尿天利竿頭上煎餽 子三箇猢猻夜簸錢師云若 向這裡領覽得驪龍到處 興雲雨其或未然且待池 開臘月蓮參	(45) 上堂五臺山頂雲蒸飯佛殿 堵前狗尿天利竿頭上煎餽 子三箇猢猻夜簸錢師云若 向這裡領覽得驪龍到處 興雲雨其或未然猶喜歲寒 臘月蓮參	門具眼所以照徹於十方 直指無私所以不蔽於一 曲打開摩竭闕梶拈却少 林玄機接客而漏泄天機 舉槌處佛祖乞命不是神 通妙用亦非法爾如然且 據箇什麼道理良久曰從 來標致雖清拙大丈夫兒合 自由	門具眼所以照徹於十方 直指無私所以不蔽於一 曲打開摩竭闕梶拈却少 林玄機接客而漏泄天機 舉槌處佛祖乞命不是神 通妙用亦非法爾如然且 據箇什麼道理良久曰從 來標致雖清拙大丈夫兒合 自由	顛具眼所以照徹於十方 直指無私所以不蔽於一 曲打開摩竭闕梶拈出祇 園玄機正是椎下現許多 神通妙用亦非法爾如然 佛相逢處轉大法輪不是 既得恁麼且道因誰致得 良久云有時拈在萬峯頂 待我上山採拄杖	「從來標致雖清拙大丈夫兒合自由」の語が存するが、門本では「有時拈在萬峯頂待我上山採拄杖」とあり異なる。
(44) 上堂有利無利不離行市 王老師賣身即且置廬陵米作	(41) 上堂大利小利何免行市王 老師賣身即且致廬陵米價	(42) 上堂大利小利何免行市王 老師賣身即且致廬陵米價	「如淨語錄」小參（洞山守初の「因事頌」） 「略錄」・正本・門本共に「參」の語あり。 〔伝灯錄〕八、南泉普願章。 〔伝燈錄〕五、青原行思章。	「如淨語錄」小參（洞山守初の「因事頌」） 「略錄」・正本・門本共に「參」の語あり。 〔伝灯錄〕八、南泉普願章。 〔伝燈錄〕五、青原行思章。	「如淨語錄」小參（洞山守初の「因事頌」） 「略錄」・正本・門本共に「參」の語あり。 〔伝灯錄〕八、南泉普願章。 〔伝燈錄〕五、青原行思章。	「如淨語錄」小參（洞山守初の「因事頌」） 「略錄」・正本・門本共に「參」の語あり。 〔伝灯錄〕八、南泉普願章。 〔伝燈錄〕五、青原行思章。

研究ノート 『永平略録』と『永平広録』の関係(上) (菅原)

備考	門鶴本『永平広録』	正山本『永平広録』	『永平略録』
	有二人酬價「 <u>麼若無</u> 」人酬價「 <u>山</u> 」 價永平自賣自買良久云如意 摩尼滿大千爭如獨坐明 窓下不知虛度幾光陰知 者不修因什麼	有二人酬價「 <u>麼若無</u> 」人酬價「 <u>山</u> 」 價永平自賣自買良久云如意 摩尼滿大千爭如獨坐明 窓下不知虛度幾光陰知 者不修因什麼	麼生酬レ價若無二人酬レ價山 僧自買自賣去也鼈拈拄杖 卓一下下座
	有二人酬價「 <u>麼若無</u> 」人酬價「 <u>山</u> 」 價永平自賣自買良久云如意 摩尼滿大千爭如獨坐明 窓下不知虛度幾光陰知 者不修因什麼	有二人酬價「 <u>麼若無</u> 」人酬價「 <u>山</u> 」 價永平自賣自買良久云如意 摩尼滿大千爭如獨坐明 窓下不知虛度幾光陰知 者不修因什麼	(45)中秋上堂雲開胡餅掛天邊 喚作中秋夜月圓睡覺起來 無覓處擡頭忽地見青天
	有二人酬價「 <u>麼若無</u> 」人酬價「 <u>山</u> 」 價永平自賣自買良久云如意 摩尼滿大千爭如獨坐明 窓下不知虛度幾光陰知 者不修因什麼	有二人酬價「 <u>麼若無</u> 」人酬價「 <u>山</u> 」 價永平自賣自買良久云如意 摩尼滿大千爭如獨坐明 窓下不知虛度幾光陰知 者不修因什麼	(44)中秋上堂雲門糊餅掛天邊 喚作中秋月一圓睡覺起來 無覓處擡頭忽地見青天
	有二人酬價「 <u>麼若無</u> 」人酬價「 <u>山</u> 」 價永平自賣自買良久云如意 摩尼滿大千爭如獨坐明 窓下不知虛度幾光陰知 者不修因什麼	有二人酬價「 <u>麼若無</u> 」人酬價「 <u>山</u> 」 價永平自賣自買良久云如意 摩尼滿大千爭如獨坐明 窓下不知虛度幾光陰知 者不修因什麼	(507)上堂記得唐朝大義禪師問鵝湖 大義禪師入內於麟德殿 論議有一法師問欲界無 禪不知禪界無欲大義 無對師拈云七顛八倒拈來 用無欲無禪兩不真識取 妄真同一妄夜深方見把針
	「略録」の「山僧」の自称は正本・門本では「永平」とある。 正本・門本には「良久云」の語があるが「略録」になし。 「略録」の「拈拄杖卓一下下座」の語は正本・門本になし。	「略録」の「山僧」の自称は正本・門本では「永平」とある。 正本・門本には「良久云」の語があるが「略録」になし。 「略録」の「拈拄杖卓一下下座」の語は正本・門本になし。	(46)上堂舉昔日大義禪師問鵝湖 湖和尚欲界無禪何修禪 定鵝湖云汝只知欲界無 禪不知禪界無欲大義 無對師拈云七顛八倒拈來 用無欲無禪兩不真識取 妄真同一妄夜深方見把針
	正本・門本に「記得」の語あるも 「略録」になし。 「略録」・正本の「拈云」の語は門 本には「良久云」とある。 〔伝灯錄〕七、鵝湖大義章。	正本・門本に「記得」の語あるも 「略録」になし。 「略録」の「雲開」の語は正本・ 門本では「雲門」とある。	(51)上堂記得唐朝大義法師問 鵝湖和尚欲界無禪何修 禪定耶鵝湖云汝只知欲界 無禪未知禪界無欲大 義無對良久云七顛八倒拈 來用無欲無禪兩不真兀々 功夫無覓處那能三界作

人

(47) 上堂永平有箇單傳句「雪裡
梅花綻一枝」中下多聞多不
信上乘菩薩信無疑

不眞識取妄真同二妄夜
深方見把針人

肩隣

(452) 上堂永平有箇正傳句「雪裡
梅花只一枝」中下多聞多不
信上乘菩薩信無疑

不眞識取妄真同二妄夜
深方見把針人

(48) 上堂舉僧問「京兆華嚴休靜
禪師」大悟底人却迷時如何
休靜云破鏡不重照落花
難上枝師云「永平今日入
華嚴之境界」廓華嚴之邊
際事不獲已鼓兩片皮
或有人問「大悟底人却迷時
如何」只向伊道大海若知
足百川應倒流

(509) 上堂云夫學習佛法最為
難得所以者何縱雖發心之
有實不知落魔不覺
發病道心破敗修證退墮真
可憐憫者也近代學者被
燒聰明魔以爲悟道值
發名利病以為效驗非
但損壞一生一身亦能損
壞多生曠劫功德善根是乃
學人最可悲也所謂悟者太
不容易領覽也非思量分

(513) 上堂云夫學習佛法最為
難得所以者何縱雖發心之
有實不知落魔不覺

發病道心破敗修證退墮真
可憐憫者也近代學者被
燒聰明魔以爲悟道值
發名利病以為効驗非
但損壞一生一身亦能損
壞多生曠劫功德善根是乃

「伝灯錄」一七、華嚴休靜章。「正法眼藏」「大悟」にも引用される。
「略録」は正本・門本の「記得」
以下の箇所と対応する。
正本・門本に存する「永平」の自
称は「略録」になし。
「伝灯錄」三〇、永嘉真覚大師証
道歌。

『永平略録』

正山本『永平広録』

門鶴本『永平広録』

備 考

別之所能解非聰明利智之所曉了也認魔燒而為大悟執病患而為功徳豈不レ錯乎兄弟直須審細參學治魔療病所謂魔者現父母師長兄弟骨肉親昵從僕之類頻々強説退道因縁亦現諸佛菩薩諸天羅漢等身又能教諭學者言佛道長遠久受勤苦不レ如自調長養身命安穩快樂恒在世間衣食豐饒五欲自恣得道自然大道何闊彼此造次顛沛歸性也或說下難可棄捨之因縁上而教退轉於道也學者知而不レ可須也記得僧問京兆華嚴休靜禪師大悟底人却迷時如何休

別之所能解非聰明利智之所曉了也認魔燒而為大悟執病患而為功徳豈不レ錯乎兄弟直須審細參學治魔療病所謂魔者現父母師長兄弟骨肉親昵從僕之類頻々強説退道因縁亦現諸佛菩薩諸天羅漢等身又能教諭學者言佛道長遠久受勤苦不レ如自調長養身命安穩快樂恒在世間衣食豐饒五欲自恣得道自然大道何闊彼此造次顛沛歸性也或說下難可棄捨之因縁上而教退轉於道也學者知而不レ可順也記得僧問京兆華嚴休靜禪師大悟底人却迷時如何休

休靜曰破鏡不重照落花

難上枝師云永平今日入

難上枝師云永平今日入

師云永平今日雖入華嚴

花嚴之境界廓花嚴之邊際

之境界未窮華嚴之邊際

際事不獲已鼓兩片皮

事不獲已鼓兩片皮或

或有レ人問永平大悟底人却

有レ人問永平大悟底人却

却迷時如何只向伊道大海若

迷時如何只向伊道大海若

若知足百川應倒流

知足百川應倒流

(49) 源亞相忌上堂報父母恩乃

世尊之勝躅且道知恩報恩

(50) 源亞相忌上堂曰報父母恩乃世尊之勝躅也知恩報恩

底句作麼生道棄恩直入無

底句作麼生道棄恩早入無

爲鄉果熟霜林慧曰光要

爲鄉霜露盍消慧曰光九族

問魂靈在何許九蓮臺上

生天猶可慶二親報地豈荒

恰成雙舉藥山坐次有僧問

唐舉藥山坐次有僧問兀々

兀兀地思量什麼山云思

地思量什麼山云思量箇

量箇不思量底僧云不思量

底如何思量山云非思量永

平今日頌出這則因緣爲

二親莊嚴報地非思量處

莊嚴報地良久云非思量

日頌出這則因緣為二親

研究ノート『永平略録』と『永平廣録』の関係(上)(菅原)

(52) 源亞相忌上堂云報父母恩及世尊之勝躅也知恩報恩底

句作麼生道棄恩早入無爲鄉霜露盍消慧曰光九族生

天猶可慶二親報地豈荒唐

舉藥山坐次有僧問兀兀底

思量什麼山云思量箇不思量

底僧云不思量底如何思量山

云非思量今日殊以這箇功

德莊嚴報地良久云思量

兀兀李將張欲畢談玄又

「伝灯錄」一四、藥山惟儼章。

「正本・門本に「良久云」の語ある

も「略録」になし。

「略録」・正本に「永平」の自称あ

るも門本になし。

研究ノート 『永平略録』と『永平広録』の関係(上) (菅原)

『永平略録』	円山本『永平広録』	門鶴本『永平広録』	備考
(50) 上堂無心是佛之語起自西 天即心是佛之談始於東 土若恁麼會天地懸隔不恁 麼會只是常流畢竟如何三 春果滿菩提樹一夜花開世界 香	(362) 上堂無心是佛之語起於西 天即心是佛之談始於東 土若恁麼會天地懸隔不恁 麼會只是常流畢竟如何三 春果滿菩提樹一夜花開世界 香	(365) 上堂無心是佛之聲起於西天 即心是佛之道始於東地 若恁麼會天地懸隔不恁麼會 只是常流畢竟如何春果滿 菩提樹一夜三花開世界香	處絕思量一切忌將玄喚作黃 剝地識情俱裂斷鑊湯爐炭也 也清涼
			道黃誰識蒲團禪板上鑊湯 爐炭自清涼